

## 遠征を振り返って①



### Hara Kaisei 【原 魁星】

自分はこのドイツ遠征を通していろいろなことを学びました。今回の遠征の課題の「ポジティブ」と自分が心がけた「チャレンジ」、この2つがとても大切だった。行くところ、やることすべてが初めてで「チャレンジ」が必要だった。それに、時差・試合・観光などハードな日程で「ポジティブ」もとても大事だった。試合では日本人とは全然違うフィジカル・シュート力の中、戦っていくうえで「チャレンジ」していくことが大切でした。フォルトゥナダビーでは、後半に出てきた選手たちに一つ一つのプレーですべて劣っていた。自分たちのプレーの質を一つ一つ上げていかなければならないと感じました。観光では、言葉がわからない中、積極的に話しかけることができた。ゆうきみたいにレジの人に「あと いくら足りないですか？」などつい日本語がでてしまい店員に変な顔をされ、はずかしかったことが何回かあった。けれども、多少困りながらも買い物もでき、有意義に過ごすことができました。ドイツ遠征が終わったけれど、この遠征が行くだけでなく、これから生きていくように心がけ、これからの練習、試合、日常生活で意識して行動していきたい。



### Nakagomi Ruka 【中込 瑠夏】

ドイツ遠征を終えて、みんな多くのことを学び、成長したと思う。まず、生活面では「気がきける」ようになったと思った。ドイツ遠征ではチームの荷物をそれぞれで手分けして持っていったので、それをしっかり管理しなければならなかった。また、試合前後では自分の準備だけでなく、チームの荷物の片づけや、個数を数えたりしている人が多くいたので良かったと思った。また、僕は「計画的に行動する」ということを学んだ。ドイツで僕が一番苦労したのは二つあり、言葉と飲み物だった。そのうちの飲み物は水道の水が飲めないのを買うしかなかった。また、日曜日にはお店がやってなかったりした。だから観光に行くときは、そこで飲み物を買えないかもしれないと考えてホテルの水を持っていったり、ホテルの近くのコンビニで飲み物を買って持っていったりしていた。また、お金も、ユーロをできるだけ使いきれるように、また、次の観光場所では何を買うか考えておいたりしていた。そして、ドイツに来て最初の買い物に比べ、最後の方はスムーズに買い物ができるようになったと思った。

次にドイツでの試合では、せり合い、球際の強さ、スピード感、シュートの力強さなどを体感した。ドイツでは6試合したが、特にヒルデンの高校生とドイツのフォルトゥナはとても球際が激しく、強かった。僕が一番心に残っているのは、ドイツのフォルトゥナのフォワードの選手（後半）で、とてもシュートが力強く、またドリブルはとてもすごかった。これがドイツのチームの強さなんだなと実感した。一方、僕たちもゴール前まではパスを細かくつなぎ、攻めることができた。しかし、ゴール前のくずしができず、点を取ることはあまりできなかった。これらの試合では、チームの課題や僕自身の課題がはっきりした。この反省を日本での試合で生かしたいと思った。ドイツに行けるのはこれが初めて最後かもしれないので、この思い出をしっかり心にしまっておいて、日本でこの経験を生かせるようにしたい。



## Omori Keiichiro

【大森 圭一郎】

ドイツに行く前に自分は「西日本遠征などで学んだことを、このドイツでしっかりやれるだろうか・・・」そして「U-15のチームとして高円に向け気持ちを一つにできる機会にしたい」と心に決めてドイツに向かった。ドイツについて思ったことは、山梨と比べて車の数、人の数、街並み、気温など たくさん違って、最初は少し戸惑う部分もあったけど日を重ねるにつれてドイツの文化や風習にも慣れ、たくさん観光もした。中でも、自分たちだけで行ったデュッセルドルフがとても好きになった。ドイツの人達は皆明るく、日本人である自分達を見つけると「内田」「香川」と声をかけてくれ、改めてサッカーの人気の高いと思った。自分達が試合をしたU-14、U-15、U-17のヒルデンのチームやフォルトウナデュッセルドルフ、ウンターラーの選手もサッカーが大好きで背や体も大きく、決定力がすばらしかった。6試合やって3勝3敗という結果だったが1試合1試合終わる事にチームとしての課題、個人の課題が見つかって取り組むことができたように思う。ドイツに行く前は、正直自分達のサッカーが通用するのか不安もあった。でも戦ってみてボール回しや、1対1の局面、ゴール前での崩しは自信になった。自分は、ヘディングが得意だからそれをドイツでレベルの高い選手に通用するか確かめたくて積極的に競り合いなどはやったつもりだが、体の大きいU-17の相手は体の使い方、ジャンプ力がとてもすごくて1~2回しか勝てなかったことが悔しかった。ドイツでお世話になったユルゲンさん、美農村さん、そして、皆川さん、山梨で待っていてくれたお父さん、お母さんに感謝しています。  
Danke schon!!

遠征を振り返って②



## Shinmura Takuma

【志村 拓磨】

楽しみにしていたドイツ遠征。あっという間の10日間でした。毎日毎日がとても楽しくて一日が終わるのが早く感じました。ドイツで過ごした10日間の中で、日本では普通に飲める水道水が飲めなかったり、食事の量が多かったりと食文化の違いを感じました。心配していた言葉の壁はカタコトの英語やジェスチャーや相手の表情を見ればなんとなくわかりました。言葉が通じなくてもそれほど困ったことはありませんでした。

サッカー面では同年代でもフィジカルが強くてトップスピードの時でも精度の高いシュートやクロスで失点してしまう場面もありました。ドイツのサッカーを体感したことは、自分にとってもチームにとってもいい経験になったと思います。自分に足りないところもまた新しくみえてきたので、これからのトレーニングでどう生かしていくのが大切だと思います。

観光でもいろいろな経験ができました。船でライン川を下ったり、ケルン大聖堂のステンドグラスを見たり、自由行動でドイツの街中を歩いたり、買い物をしたりしました。その中でもオランダリーグのVenlo-utrechtの試合やブンデスリーガのBorussia-Hoffenheimの試合が印象に残ります。ブンデスリーガで日本人の宇佐美選手が活躍している姿を見てかっこいいと思いました。ドイツ遠征を通して10日間の中で学べたことはたくさんありました。これから先のサッカーだけではなく、人生にとっても必ず+（プラス）にしていきたいです。





## 編集後記

まずはじめに、この珍道中の完成が大変遅くなってしまったことに対し、子ども達はもちろん、保護者の方々にもご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。やっと完成することができました。今回は11日間という日程でサッカーもまたピッチ外の活動も盛りだくさんになり、珍道中に収めきれない事柄もあるかな・・・と思っていましたが、作成を始めるとやはり、どんな小さいことでも割愛することはできず、毎日の時系列に沿って起こった事柄、ゲームの内容等を画像を中心にまとめていきましたので、例年と同様ボリュームも大きくなってしまいました。

みなさん心待ちにしていたことと・・・(もう忘れてしまったかもしれませんが・・・)・・・この珍道中をご覧になり、選手たちはもう一度ドイツに行った気分になってくれたらな、またご家族の方々にはお土産話をたくさん子ども達から受けたこととは思いますが、子どもの視線とは違った角度、私なりに観た感想やら思いを記してありますので、新しい発見があることを期待してドイツ滞在中の活動をご覧になっていただけたら作成した甲斐もあると思っています。

さて、今回の遠征のテーマは、“チャレンジする” “ポジティブに考え、行動する” でした。初めての海外、日本語が通じないところでの生活とサッカー、何もなくても、人のあとをついていだけでも11日間無事過ごせて帰ってこれるかもしれない・・・でも、そんな海外研修より、団体行動で全体のスケジュールはあるにしても、それぞれの活動を自身の行動で様々な体験をしていき、そんな中で失敗をしたり、恥ずかしい思いをしたり、達成感を味わったりと言う感動・想いを体験していくことが、この研修の最大の目的であり、子ども達にやってほしいことでもありました。さらに、生活していくにつれ様々なストレスがそれぞれの心体にのしかかっていきます。でもそんな中でも笑顔で対処できたり、思いやりを持ったり、積極的に行動していけたりすることでメンタリティを強化させていくこともまた選手に課した目的のひとつでありました。また私に課せられた目的の中で最も重要なのが、“ドイツ、楽しかった。”と覚えてもらえたかどうかです。私としては、思いのあるドイツ、私を育ててくれたドイツです。だからドイツの文化、サッカーに誇りを持っています。そんなドイツに対して選手たちが好感をもって帰ってもらえることが俺にとっては一番のモチベーションでもあります。

どうだったでしょうか？ ドイツを満喫できたでしょうか？ そしてこの11日間の体験が活かされているでしょうか？ 結果は、成果は、すぐ現れてくるものではありません。これから大人への道を歩んでいく中でこの11日間の体験が糧となり思考となり判断・決断ができていけばよいかなと思っています。ここからの選手たち、彼らを温かく見守っていきましょう。

最後になりましたが、今回の遠征にご協力をいただきました全日空の森様・千葉様、ドイツ滞在中にお世話になった美野村様、VfB03HildenのMr.Bender・Mr.Jur.その他スタッフの方々、子供たちを遠征に快く送り出していただきましたご家族の皆様本当にありがとうございました。そして何より私のプレッシャーに・仕掛けに物怖じせず、ポジティブにチャレンジし続けた選手たち、君らが共にいなければ、今回の遠征は成功しなかったし、良いものにならなかったと心から感じています。本当にありがとうございました。これからの活躍を心より期待しています。

文才がなく、表現力に乏しく、支離滅裂なところがあったり、表現のしかたに不明朗なところがあるかもしれない珍道中にはありますが、全力で作りました・・・という思いをくんでいただき、お楽しみいただけたら幸いです。

PS: 遠征記の中に掲載している写真、光の画像がちょっと多いと感じた方も少なくないだろうな・・・と思います。親ばかだと反省しています。どうか寛大な心をもってご一読ください。

2013年3月31日  
フォルトゥナサッカークラブ  
代表 皆川 新一

